



# 国際病理アカデミー

## 日本支部

A NEWS BULLETIN 2004 Number 3

Published quarterly  
by the Japanese Division  
of the International  
Academy of Pathology

### OFFICERS

#### PRESIDENT

T. Morohoshi, M.D. (06)  
Showa University

#### PAST PRESIDENT

R. Y. Osamura, M.D. (06)  
Tokai University

#### PRESIDENT-ELECT

H. Hashimoto, M.D. (06)  
University of Occupational and  
Environmental Health

#### SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (06)  
National Defense Medical College

#### COUNCILLORS

Y. Kato, M.D. (04)

Cancer Institute

K. Mukai, M.D. (04)

Tokyo Medical University

S. Nakamura M.D. (05)

Aichi Cancer Center

H. Iwasaki, M.D. (06)

Fukuoka University

Y. Nakasato (06)

Gunma University

#### COMMITTEE CHAIR

##### Education, Chair

N. Nemoto, M.D. (06)

Nihon University

##### Education, Vice Chair

Z. Naito, M.D. (06)

Nippon Medical School

##### Finance

M. Tsuneyoshi, M.D. (04)

Kyushu University

##### Nomination

R. Y. Osamura, M.D. (04)

Tokai University



### XXV Congress of the International Academy of Pathology に出席して

IAP Vice President (Asia)

IAP日本支部前会長

長村義之

去る10月10日から15日までオーストラリアのブリスベンでRobin Cook会長のもと表記のXXV Congress of the International Academy of Pathologyが開催されました。日本からも170名以上の方々が出席され、Cook会長はじめ主催されたオーストラリアの会員の方々は大変喜んで居られました。会場は、ブリスベンの市街を見渡せるブリスベン川に面したBrisbane Convention & Exhibition Centerで、会議室は、すべて2, 3階（現地ではGround level first level）にまとまっており、出席しやすく設計されました。会場では、日本から出席されている多くの先生方も含め各国の出席者が再会を喜び、親しく話し合われている光景があちこちで見られました。成田経由で出獄を予定されていた先生方は、東京を大型台風が直撃し、予定していた便が飛ばずにご出発が大変ご苦労されたと聞いております。シドニー経由、シンガポール経由の代替便を利用されて2日遅れの出国など本当にご苦労様でした。

以下に、今回の学会での出来事を挿い摘んで述べて見ます。

先ず、学会に先立って行われたIAPのExecutive Meetingが、牛込新一郎IAP会長の下で、10月9日に開かれました。会長のご挨拶に続いて、Secretary, Treasurer, Vice Presidentsの報告の後、今回のRobin Cook会長のご挨拶があり、今後の国際学会の会長が計画を報告されました。各学会の予定は以下の如くです。

XXVI Congress Rick Fraser会長

2006年 開催地モントリオール 会期9月16日—21日

XXVII Congress Goerge Kontogeorgos会長

2008年 開催地アテネ

これに引き続いてXXVIII 2010年のCongressの会長の選出が行われました。ブラジル (San Paulo)、スペイン (Barcelona)、タイ (Bangkok) が誘致のプレゼンテーションを行い、いずれも、魅力的なものでありましたが、投票の結果ブラジル・サンパウロでの開催が決定されました。翌日のCouncil Meetingでは、ブラジルのみがプレゼンテーションを行い、満場一致で承認されました。したがって、IAP XXXVIII Congressは、2010年サンパウロ市で開催される予定です。プレゼンテーションで何度も繰り返された “San Paulo has the second largest Japanese population outside of Japan !” がまだ耳に残っています。サンパウロでは、多くの現地の日本人にお会いすることが出来ると思います。

また、2006年の8月22日から25日まで、Wu会長のもと北京で4th Asai-Pacific Congress of IAPが開催されます。この会についても、IAP日本支部の役員がOrganizing committeeに入って積極的に協力しています。会期中に、Second Circularが配布され、Dr.HK Ng(香港)とDr.Jian Gu(中国)が大いに宣伝活動をしていました。

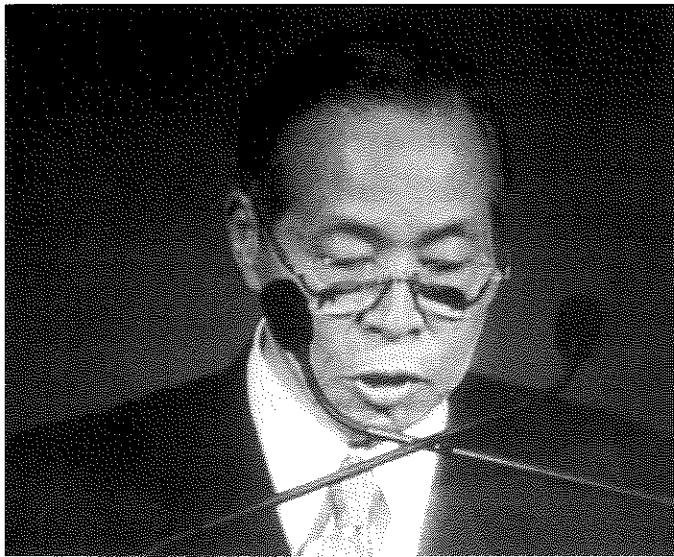
また、今学会の終了後、牛込会長はPast Presidentとなられ、執行部は以下のごとくのメンバーとなりました。

President Dr.Francis Jaubert

Past President Dr.Shin-ichiro Ushigome

President elect Dr.Konrad Muller

Secretary Dr.Florabel Mullick



Treasurer Dr.Jack Strong

Vice Presidents: (略)

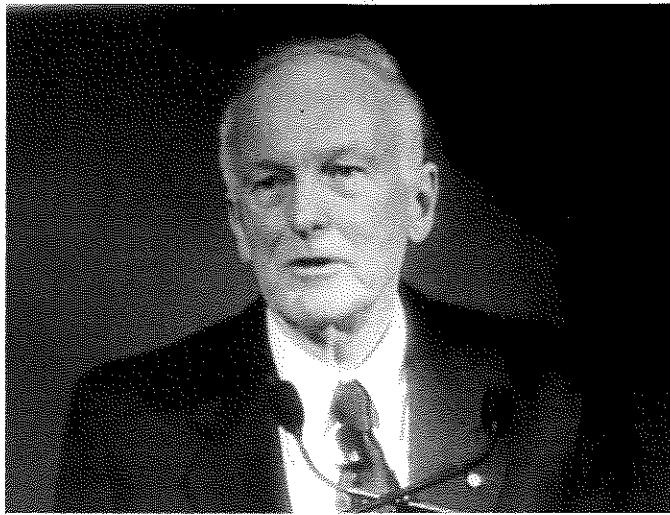
Newsletterは、引き続きDr.Robin Cookが担当することになりました。

また、今学会で牛込会長の長年のアカデミーに対するご功績が評価されGold medalを受賞されたことも、我々日本支部として極めて光栄なことと存じます。

更に、New Divisionとして、アジアからTaiwan Divisionが今回承認され、仲間入りしました。アジアでのIAPの活動が更に活発化されることが期待されます。

Congressの内容は、Keynote addressが毎日昼時間帯(12:00-13:00)にあり、それぞれ貴重な講演を聞くことが出来ました。Cook会長のご講演は、多くの貴重な写真を交えて オーストラリアの原住民 (Stone age people) が急速な近代文明と接し変貌する病理学についての極めて興味深いものでした。Scientific programとしては、一般演題の他、シンポジウム (SY) ,スライドセミナー (SS) ,ショートコース (SC) ,ロングコース (LC) など、広い分野にわたる多彩なプログラムが組まれていました。また、初めての試みとして、SSでは、CD付のモノグラフが登録者に配られ、また希望者には販売されました。この試みは、プログラムのWeb化と平行して行われたものであり、大成功であったと思われます。また講演は、すべてPCで行われ、Speakers service roomで中央化されており、PCのcheck-inをするとすべての会場にそのセッションの講演用PCが配信されており、極めて効率よく運営されていました。各Scientific programに、日本から参加された先生方も多く、IAP日本支部の貢献度も極めて高かったものと思っています。今回の学会は病理学のProfessional educationを主たる目的とす

Robert Eckstein プログラム委員長



Robin Cooke会長

るアカデミーの活動が充分に発揮できたもの確信しています。各演者の先生方には、何度もEmailで連絡をしたBob Ecksteinプログラム委員長にも、心からCongratulationを述べました。日本からの多くの参加を心から喜んで居られました。

また、会期中にこれまでIAP日本支部の発展に大変ご支援いただいたオーストラリアのPhilip Allen教授を日本支部として感謝の意を表し、Allen教授を囲んで会食いたしました。台風の影響で到着が遅れ出席されない先生方もおられ残念でしたが、牛込会長はじめ我々がAllen教授のこれまでのご支援に感謝しつつ楽しい会食のひと時を過ごしました。

すべてのプログラムの終了後に行われた10月15日の閉会式では、IAPの会旗BannerがRobin Cook会長からUSA-Canadian DivisionのRcik Fraser新会長に渡され、IAPは2006年のカナダ・モントリオールに向けて新たに出発しました。閉会後Bannerを丁寧かつ感慨深げに囲んでいるRobinの姿に感動したのは私一人ではないと思います。参加者一同RobinにモCongratulations!!モを述べ帰途に着きました。、

ジャカルタの青い花があちらこちらで咲き誇るブリスベンでは、毎日快晴の日が続きました。出席した会員の方々もそれぞれ思い思いの計画でオーストラリアを楽しんでこられたことと思います。日本に帰ると、それぞれの山積された仕事が待っていることと思います。皆様、次回モントリオールに思いを馳せながら頑張りましょう。

また、最後になりましたが、牛込新一郎会長は、本 opening ceremony のspeechでのスライド





閉会式でのIAP首脳陣と

学会の期間中は広い会場を所狭しと奔走され、要所要所で素晴らしいご挨拶をされ、学会を見事に成功されました。 今回の栄えあるIAP Gold medalの受賞に相応しい牛込新一郎会長のご活躍・ご功績に心からのお祝いを申し上げます。

(10月16日 ブリスベン発東京の機内にて)

**IAPアジア・太平洋支部代表者会議報告  
2004年10月12日、ブリスベンにて**

次期会長 橋本 洋

1. ブリスベーンで開催された第25回IAP国際学会期間中にIAPアジア・太平洋支部代表者会議（座長：IAP副会長Dr. Ng）が開かれた。オーストラリア、中国、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、シンガポール、台湾及びタイの代表と日本支部からは諸星会長、根本教育担当委員長、橋本次期会長の3名、合計33名が参加した。
  2. 前回議事録が承認された。
  3. 台湾及びインド支部の参加が承認された。
  4. 2003年（バンコック）の第3回アジア・太平洋IAPが報告された（Dr.Thiti）。
  5. 2005年（北京）の第4回アジア・太平洋IAPの準備状況が報告された（Dr. Gu）。
  6. 2007年の第5回アジア・太平洋IAP開催国は次回の本会議で決定されることになった。
  7. 各支部会員の交流促進のためにwebsiteの立ち上げが検討された。
  8. アジア・太平洋免疫組織化学・分子病理学会設立が提案された（Dr. Leong）。

Brishane Congress 2004開催される

Brisbane Congress 2004開催される

## 台風の成田から

折りしも台風24号のあおりで、9日（土曜日）にBrisbaneへ向かわれる参加者が多かったと思う。Brisbane直行のJAL便が完全に欠航となり、また成田空港への交通はすべて遮断され、周辺のホテルは満員との異常な事態となった。JALの対応は、1. 交渉しようにも電話がつながらない、2. たとえ繋がっても対応が曖昧、3. 時間がくると電話も応対なし、4. 空港でのカウンターも埒があかない、5. 大変空しくも、どうしよ

### Brisbane Congress の首脳陣

うもできない焦りと焦燥感、といったことを多くの方々が感じられたのではないでしようか？出発時間の頃は台風の影響も軽く、素人目には飛行機を飛ばせるように見えましたが、何しろ成田にJALの飛行機がないという事態だったようです。それでは飛ばしたくても飛ばせないわけです。土曜日の便の振り替えはできず、月曜日の便とか、他社の飛行機会社への振り替えとなつたようです。いずれにしろ今回のJALの対応に怒りを覚えられた方々が多かったのではないかと思います。

Brisbane

Brisbane は Australia 第3の都市で、温暖な亜熱帯性気候である。赤道を挟んで沖縄あたりの位置と思われる。

*Kontogeorgos Athens Congress 会長, Dr. Tween*



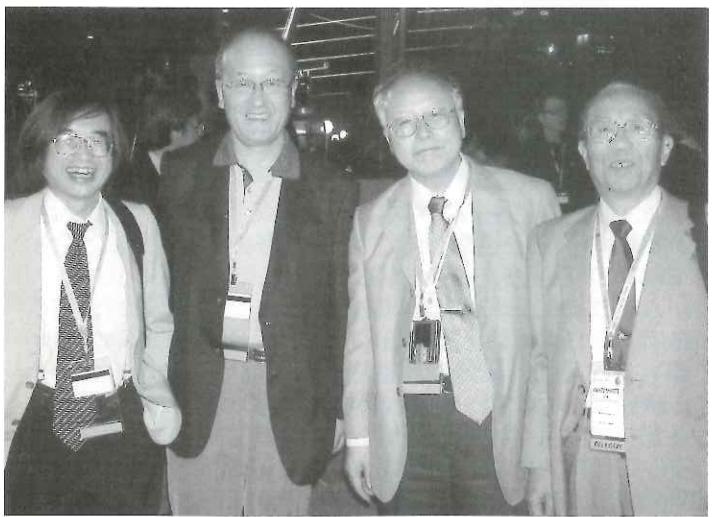


### Wine and Cheese Evening

10月10日（日）朝から夕方まで、Training Day for Pathology Traineesと称して、著名な病理医が若手の先生方に講演を行う催しが行われた。日本からは牛込IAP会長、長村前会長が講演をされ、他には西独のKloppel、アムステルダムCongress会長だったTweel、次期IAP会長のJaubert、IAP本部SecretaryのMullick、USCAPのSilva先生達が熱弁をふるった。18：00からはWine and Cheese Eveningが開催され、white and red wineに加えて、スパークリングワイン（シャンパン様）、種々のチーズが美味しかった。

### 牛込IAP会長、Robin Cookeコングレス会長

11日（月）17：45から開会式があり、Robin Cooke会長、Robert Ecksteinプログラム委員長、Warick Delpradoオーストラレーシアン支部会長の挨拶があり、牛込IAP会長のスピーチが行われた。正面の二つの大きなスクリーンに演壇がリアルタイムで映し出される演出がされていた。真面目なopening ceremonyの後、4人のジーンズの若者（少年か？）が舞台へあがり、凄まじいヘビーロックの音楽に合わせてステップダンスを踊り始めたのには驚いた。火はでる煙はでるはと。最後にCooke先生が舞台でステップダンスを披露され、万雷の拍手を受けられた。Cooke先生はダンスが好きだったことをこの時思い出した。その後は、会場近くのBrisbane river沿いにあるSouth Bank Streets BeachでのWelcome receptionとなった。Australian barbecue (BBQ), wine, beerとラテン風の音楽を楽しんだ。中にはダンスに興じる男女もみられた。この場所は、学会場から歩いて5分くらいの所にあって、プール、飲食店、ブーゲンビリアのアーケードのある公園である。



Welcome reception の風景

赤紫色のブーゲンビリア、薄い青い色のジャカランダが、澄み切った青い空とマッチして大変きれいである。Visitor's guideに"Plenty to smile about"と紹介されていたが、Brisbaneには明るく人当たりの大変いい、Tシャツと半ズボンの人達が多かった。Brisbane Convention and Exhibition Centreは大変大きな会場で、我々のほかにも様々なイベントが行われていた。事前登録の受付、当日受付が分かれているが、総勢5-6人であろうか、迅速で整然と行われ、合理的な流れにまずは驚かされた。3 Floorからなる会場で、さしたる移動の苦労はない。1階に受付、Exhibition Hallがあり、2階と3階に主会場や多数の会場があった。外は結構暑いのに、室内はエアコンがよく効いていて、上着が必要であった。





## 学会内容

学会の内容は、08：30から12：00までのSY, SC, LC, SS, FPSとPoster、12：00-13：00のKeynote address, 13:00-14:00はExhibition Hallでlunch、これは会費に含まれていて、結構なボリュームがあった。午後は14：00から17：30まで午後のセッションが開催された。広範にすべての領域を網羅した、素晴らしい内容のものであったように思う。SC, LC, SSは別個にお金を払わなければいけないのだが、SSについて今回はCooke先生の発案で、ハンドアウトは各コース毎の本となり、ガラス標本はすべてCD-ROM添付となった。これは素晴らしいことである。名古屋コングレスの時、ガラス標本をケースにつめて送った苦労、その上、日本Convention Serviceが小さめのケースを購入して、うまく入らないかったり、無理やりつめてガラスが出せなかったり、随分と苦情を言われたことを思いました。CD-ROM付の本を配ったり売ったりしていた女の方はBrisbaneのpathologistだったと分りましたか？

今回の特徴に日本人の参加者が多かったことが言える。しかも、speaker, moderatorに名前がたくさん連なっていたことは大変喜ばしいことである。種々の発表を聞いていても、日本、日本人の名前がよく聞かれる様に思った。

## 学ぶべきこと

学会場、運営、プログラム、Social programなどすべての面に当って、Cooke先生、Eckstein先生達の工夫と創意が込められているように思われた。正直、大成功であったと感心している。大変きめ細かく行き届いたものであったと思う。心からおめでとうございますと言いたい。

発表はすべてPC, Power pointで行われ、各自CD-ROMをSpeaker's service roomへ持ち込むと、黒服の技術員の方々がコピーしてくれて、管理はセンター化され、効率良く行われた。Amsterdam Congressでもこれが行われたが、スライドを戻したりとかが、スムーズでなかつたが、今回は自分で演壇上のPCをクリックするので自在であった。各学会場には管理運営の係員はいなくて、moderatorがそれをやるというか、殆ど何もしなくてうまくいくようになっているのが素晴らしい。学会場全体でも、学会のための係員は大変少人数であるように見えた。lunchを食べにExhibition Hallへ入る時、social programへの参加の時のチェックだけが2-4人見かけた程度である。これだけ少ない人員でもうまくやれるんだと関心していたら、「名古屋の時は随分暇そうな女の子がぎょうさんいたねー」と、会場できついお言葉も頂いた。lunchについても、忙しいときは会場の外へ食べに行くというより、中で済ませたいもの、よく気を遣ってくれているなと思った。

日本人の参加者でHappy hourというのに気づかれた方、参加された方は余り多くなかったのではないかと思う。水曜日の夕方、会場内の2階で、各国支部といつても東南アジアが多かったけれど、アルコールとスナックがふるまわれ、ワイワイガヤガヤと友好を深めたのである。Brisbaneの友人に訊ねたら、Cooke先生がsponsorを見つけてきて開いてくれたのだそうである。

最後に1点だけ、Poster会場で、掲示物を貼るのに押しピンでなく、マジックテープの様なもので貼り付けるのに日本人は驚いたと聞きました。所変われば、、、ですね。

## 今後

Australia Divisionとは今でもいい関係ですが、もっともっと密接な関係になったらいいと考えた次第です。

次のCongressはカナダのMontrealで、2006年です。フランス風カナダも興味をそそられますね。

wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

## New OrleansにYakumo Nihon Teien

2004年9月20日付けのThe Daily Yomiuriの紙上に"Garden in U. S. to honor Hearn"と題して、興味ある記事が掲載された。お気づきの方はいらっしゃいましたか？Brisbaneで、Strong先生から見せられて、ここに紹介します。

New OrleansにあるJapanese Garden Society (President: Dr. Jack P. Strong)が日本庭園を作り、名前をYakumo Nihon Teienと付けることを考えている。何故なら、

